

便利さから広がったプラ包装 削減はあの手この手で

ごみ問題について実証研究している京都経済短期大学准教授の小島理沙さん（環境経済学）に聞きました。



今、環境問題は無視できない

プラスチックは1970年代から増え始めました。これにはスーパーマーケットの進出が大きく影響しています。スーパーでは、個別の包装に産地や製造日などを表示しなければなりません。売り場で目立たせるため、必要以上に包装する傾向もありました。

食品の品質を常温で長期間保てるプラスチックは大変便利です。しかも安く大量に生産できます。

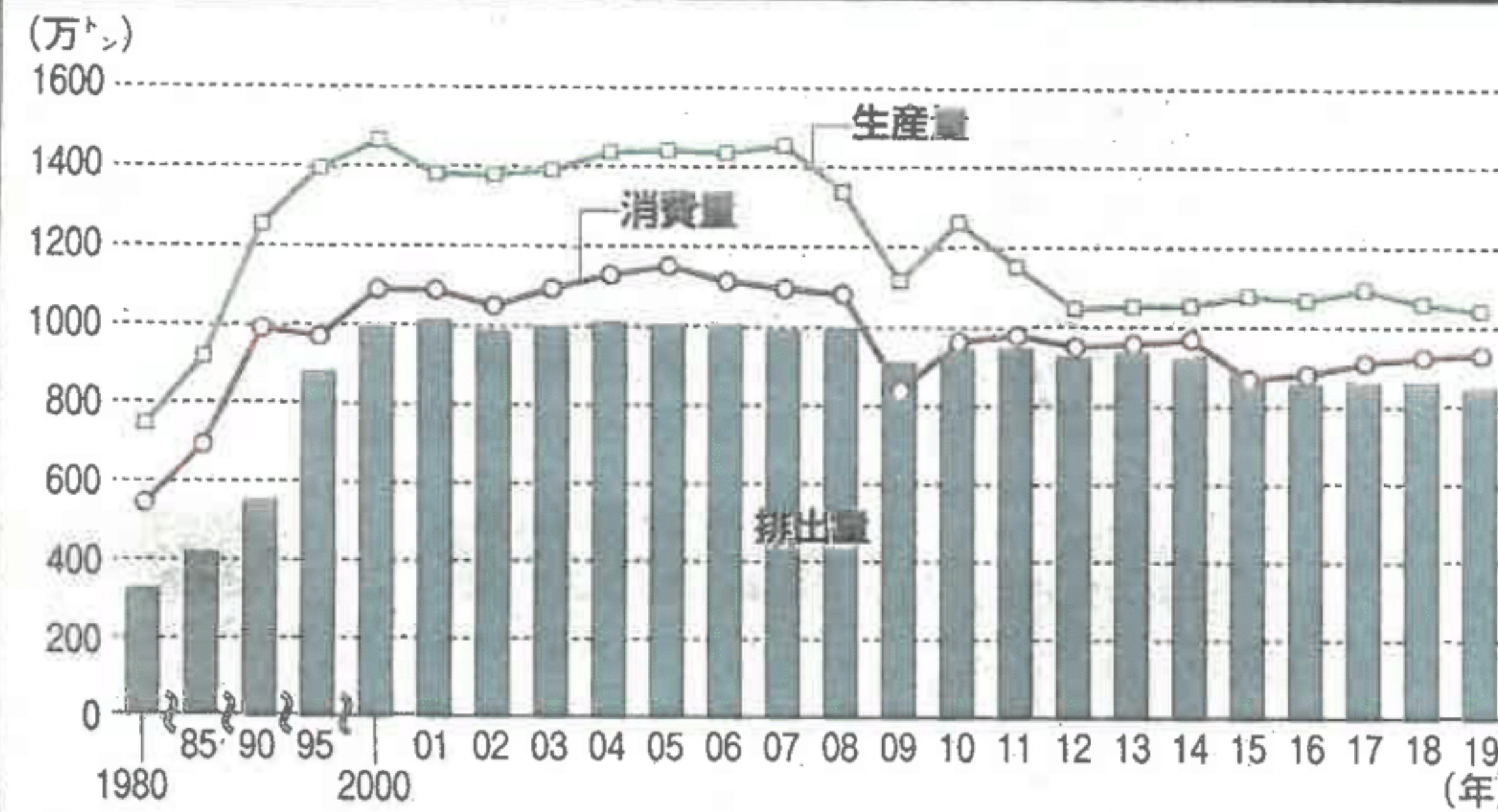
消費者の私たちの声で動く

10年あまり前、山崎製パンと協力して、兵庫県神戸市内の一部の店で包装を減らす実証実験をしました。ロールパンなどの袋の形を変えたので、きんちゃくのように上部にギャザーを寄せるのをやめて、普通の袋のように閉じました。包装材が約30%減りました。

「お客さまの声」は響きます。特に、売れると思うことには敏感です。もちろん企業には企業の理屈があるので、すべてが聞き入れられるわけではありません。しかし、意見を述べ合って変えていくことが大事です。

一方でプラスチックの削減は、レジ袋の有料化のように消費者にちよつとした不便を与えることもあります。これを支持するかどうか、みなさんの価値観にかかっています。

国内のプラスチックの生産量、消費量、排出量



「2019年プラスチック製品の生産・廃棄・再資源化・処理処分の状況」(プラスチック循環利用協会)をもとに作成

生産量には輸出入も含まれています。2009年は、前年に起きた世界的な不況の影響で、生産量、消費量が大幅に減りました。



包装材を約30%減らした包装
山崎製パン提供